

金倉質問(2016年度宗議会)

内局・宗務役員の皆様には、激務の中日夜ご苦労様であります。
質問させていただきます。

総長演説の一部分についての質問

宗務総長は、先の総長演説、「願いの継承」の中で、同朋会運動が生まれてきた経緯について次のように述べられました。その部分を今一度、確認させて頂きますと、「その願いは宗祖親鸞聖人の七百回御遠忌・七百五十回御遠忌、蓮如上人の四百五十回御遠忌・五百回御遠忌、宗祖親鸞聖人の御誕生八百年・立教開宗七百五十年慶讃法要という勝縁の場において宗門存立の本義が問い直され、その流れの中で宗祖に帰ることを提唱した同朋会運動が生まれました」と述べられています。私が教えられてきた同朋会運動は、清沢満之先生の願いを継承された先人達が宗祖七百回御遠忌を勝縁として、その翌年の昭和37年に提唱された運動であり、その後、節目の御遠忌等で、その内実が問い返されながら今日まで受け継がれてきた運動である、と受け止めております。この度の、総長の表現におかれましては、先の宗祖七百五十回御遠忌までを含む問い返しの中から同朋会運動が生まれてきた、といふように理解できます。果たしてどのような思いをもってあの表現をとられたのか、教えていただきたいと思っております。今日、同朋会運動という言葉が重さを失い、一つの修飾語として使われている状況に不安を感じています。

だからこそ、活字として公になるお言葉ですので、誤解を招かないようにする必要があると思っておりますが、いかがでしょうか。

過疎地寺院に対するの対応について

次に過疎地域寺院に対する宗務当局のお考えをお伺いします。
昨今の施策、予算において、過密である都市(首都圏)教化に対する思いは充分伝って来ます。一方過疎地域に存在する寺院に対する思いが伝わってきません。今日までの宗門を物心両面で支えてきたのは、今、人口流出などで苦悩する過疎地となった地域の寺院が多数ではないでしょうか。今年度予算の中でも、過疎地域に対する費用は教化機構振興費の中の教勢調査費、教化振興助成費の中の地方教化助成費の極一部とうかがっています。果たしてこれで良いのか、と思っております。
熊本県・大分県地方の地震により多数の寺院・ご門徒が被害を受けられました。中には被災地住民がその地を離れ、いっきに過疎化が進む懸念

があります。現に今までの大被災地においては、事実そのような事象が生じたとお聞きしています。

過疎地の現状は、住職や役員が手を施したくても、周りに生活する人が激減しています。

どうか、宗務当局におかれましては、過疎地域に対応している姿を、目に見える施策、予算などを通して明示して頂きたいと思います。

いかがお考えでしょうか。

次に熊本・大分に対する支援であります。

次に、熊本大分震災の対応について思うに、ご門徒さんの被災状況や各寺院の情報把握が宗門において適切に出来ているのでしょうか。例えば南阿蘇地区のご門徒さんは、道路寸断により通勤不可能な方々や危険地区で帰れない人々もいると聞きます。観光客も遠のき、地区産業も開店休業。農家も耕作不可能に陥り、残された人たちは高齢者や土地を離れられない人達であって、益々この震災は過疎化を早める事になります。

このような状況下、お寺の復興に思いを向けていただくことには大変難しい状況であります。だからこそ宗門が決して被災者を見捨てないという姿を、目に見える形で実効的な助けが求められます。広範にご門徒が被災している状況では懇志もお願いできません。宗門がこの危機にどのような救済姿勢を示すことができるのか、まずもって今回の震災による被災状況を明らかにしていただきたいと思います。そして今後の支援をどのように考えておられるのか。この支援次第では人々が宗門から離れていく可能性すら見受けられます。キッチリ取り組んでいただきたいと思います。

熊本教区では臨時教区会が開催され、熊本教区会館の復旧にともなう資金調達が話題に上がったと聞きます。教務所本堂の補修見積金額を明示してください。何故なら補修の全てを、可能ならば本山で賄う事をお願いしたいからです。最終的被害状況が確認されれば、補正予算など復興への対応がなされる事と思いますが、宗門の危機として熊本・大分に眼を注ぐことが今私たちに求められています。今一度当局の所見を伺います。

また、ボランティアの受け入れ状況とその問題点や課題がありましたらご提示下さい。